

街道と宿場町、湖上交通の広がりとの交わり

1) 概要

古代、市域を通過する交通路である**東山道**は官道として整備され、篠原付近には食事や宿を提供する**駅家**が置かれました。都と地方の往来で多くの人々が当地を訪れ、わが国最古の歌集である**万葉集**にも、近江を舞台とした歌に沖つ島山（沖島）や水茎の岡（岡山）が詠まれています。

中世には、武佐が**宿駅**として機能し始め、**八風街道**が東山道と交わることで、**山越商人**ともいわれる小幡（東近江市）・保内（同）・石塔（同）・杵掛（愛荘町）の商人が頻繁に利用し、物資の流通地点として発展していきます。近世に入ると、東山道は**中山道**と呼ばれ、参勤交代やお茶壺道中、また、伊勢参宮や各地の寺社参詣へ多くの旅人が往来し、**武佐**は宿場町となりました。その他、朝鮮通信使の昼食休憩地となった八幡を通る**朝鮮人街道**や、長命寺や観音正寺への**西国巡礼**に向かう巡礼路など多くの街道も整備されました。近世の街道は、様々な人や物が往来し、沿道の人々にとっては、異文化に接する機会でもありました。

一方、琵琶湖側に目を向けると、平安時代には、船木郷が船材の集散地となり、奥島・沖島には**湖上関**が設置されました。近世に入ると、八幡町と船木村の船仲間から**八幡浦**が誕生し、湖上交通の重要な拠点として物資輸送に貢献し、在郷町八幡町の経済的繁栄の基礎を築いていきます。また、常楽寺浜や江頭浦も村々で生産した米の輸送に利用されるなど、各所に浦が展開されました。

本市は、これら中山道、朝鮮人街道といった全国区の東西路と、内陸部と琵琶湖水運を結ぶ南北路とが交差する、恵まれた立地条件のもと**湖東の水運拠点**として発展してきました。

明治時代になると、近代化の波が現れ、明治5年（1872）には長命寺港と大津・米原を結ぶ**蒸気船**が就航しました。明治22年（1889）には東海道線、大正2年（1913）には湖南鉄道（現近江鉄道八日市線）が開通し、**鉄道交通**が発達します。その後、湖上交通は衰退していましたが、鉄道の両路線は現在でも市民の足に欠かせないものとなっています。

現在、これら街道沿いには、八幡の伝統的建造物群に代表される往時を偲ぶ町並みとともに、道標や常夜灯などが多数残されており、今なお往来する人々を導いています。

2) 構成歴史文化資産

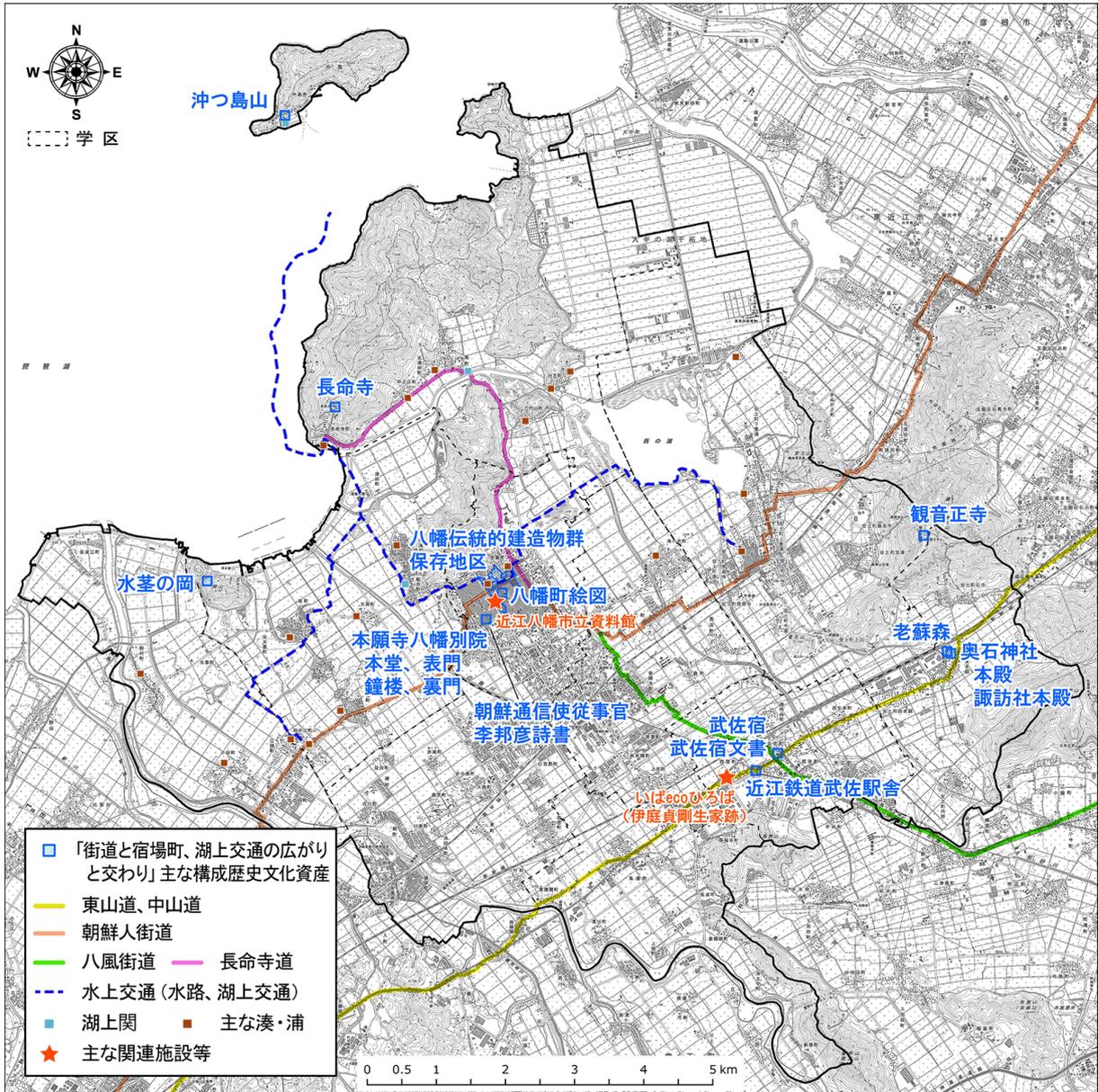
	種別	名称	類型
1	その他人文	東山道、中山道	未指定
2	その他人文	朝鮮人街道	未指定
3	その他人文	八風街道	未指定
4	記念物	老蘇森	国指定文化財
5	有形文化財	奥石神社 本殿、諏訪社本殿	国・市指定文化財
6	記念物	武佐宿	未指定
7	有形文化財	武佐宿文書	未指定
8	記念物	西国巡礼札所（観音正寺、長命寺）及び巡礼道（長命寺道等）	未指定
9	伝統的建造物群	八幡伝統的建造物群保存地区	国選定文化財
10	有形文化財	八幡町絵図	市指定文化財
11	有形文化財	本願寺八幡別院 本堂、表門、鐘楼、裏門	県指定文化財
12	有形文化財	朝鮮通信使従事官李邦彦詩書	市指定文化財
13	その他人文	湊・浦（八幡、常楽寺、江頭、田中江等）	未指定
14	その他人文	湖上関（船木、奥島、沖島）	未指定
15	その他人文	万葉集の舞台（沖つ島山、水茎の岡）	未指定
16	有形文化財	近江鉄道武佐駅舎	未指定

その他…その他の街道（景清道、白鳥道、常楽寺道等）、道に関する資産（道標、町石、常夜灯、石碑等）、武佐宿に関する資産（武佐宿本陣跡及び脇本陣跡、高札場跡、武佐榭、武佐墨、ムシャリンドウ、絵図等）、浦・水運に関する資産（常夜灯、丸小舟等）、歌碑（万葉歌碑）、蒸気船に関する資産（千齡丸と長命寺港）等

3) 保存・活用の核となる関連施設等

近江八幡市立資料館（八幡）、いばECOひろば（武佐）など

「街道と宿場町、湖上交通の広がり」と「交わり」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



中山道武佐宿



老蘇森



奥石神社本殿



朝鮮人街道の町並み



本願寺八幡別院



八幡堀 (八幡浦)



常楽寺湊



水茎の岡